

## 第七回就労支援ネットワーク フォーラム開催

ひきこもり等青少年の社会参加や就労について考える、就労支援ネットワーク研究会(NPO法人、県青少年課、産業活性化課、雇用産業人材課、商業観光流通課の構成)の主催により、標記フォーラムが十月三日、ヨコスカベイサイドポケットにて開催されました。

第一部では、横須賀市議会議員の藤野英明さん、精神科医の阿瀬川孝治さん、県立保健福祉大学教授の小林正稔さんから、生き辛さを抱える若者がいること、その若者たちが取り巻く社会、社会参加できる環境について、それぞれの立場からの課題提起がありました。

第二部では、NPO法人アンガージュマン・よこすか事務局長の島田徳隆さんが加わり、同法人理事長の滝田衛さんをファシリテーターに、「生きていることが社会参加? 働く環境とは」をテーマに討論会が行われました。

滝田さんは活動を通じて、「若者は、社会のルールや秩序に合わ

せなければと、無意識のうちに努力や我慢を強いられ、結果、生き辛さを感じ働くことができなくなってしまう。それなのに、再び就労できなかつたり、社会参加ができないのは精神が弱いからだと言われてしまう」と現状を伝え、小林さんは、「若者たちが失敗しても、挑戦できる機会を与えられていない現状があるように感じる」と、気軽に身近に感じ参加できる機会の必要性を指摘されました。

島田さんは、「アンガージュマンに関わる若者は商店街と交流があり、身近な社会参加が生きがいにつながっている」と取り組み成果を報告されました。身近な地域で生まれる「つながり」は生き辛さを抱える若者への理解を広げ、次へのきっかけを作ります。自分らしく生きることを支える社会づくりが今求められています。

(企画調整・情報提供担当)



## 里親親大会開催

去る十月十七日、県内の里親や児童福祉に関わる関係者らが集まり、里親制度の一層の普及を図ることを目的として、相模原市立あじさい会館にて「第二十二回神奈川県里親大会」が開催されました。

里親制度とは様々な理由で実親のもとで暮らせない子どもが里親のもとで家庭的な環境の中で生活し、一般の家庭と変わらない一体



優良里親として表彰された里親の方々

感や強い絆が生まれることで、子どもの健全な育成を図ることを目的とした制度的です。

基調講演は、「虐待・非行そして自立し親子の新しい絆」をテーマに、愛知県・西居院住職の「やんちゃ和尚」こと、廣中邦充さんが招かれました。西居院は「平成の駆け込み寺」と呼ばれ非行や家出、不登校の子どもを無償で預かり、今まで六百人以上子どもたちが更生させ社会復帰を手伝ってき



ました。現在、寺に入るのを待つ子どもは全国で2千人を超えているそうです。

「はじめから『悪い子』なんていないんです。子どものほんの少しのシグナルを見逃してはいないだろうか、親の見栄で物を言っていないだろうか。本当に子どものことを一番に考えているのかも一度振り返ってほしい。親は時に叱り、時には何があっても駆けつける『後ろ盾の役割』と、『一緒に生きる』気持ちで寄り添う心『三歩の距離』を対にした教育をしなければいけない」と廣中住職は強く訴えかけます。

また、講演後のパネルディスカッションでは三名の里親の方から里親になったきっかけや魅力、取り巻く現状や課題などが語られ、里親家庭と里親制度について考える時間となりました。

今後、里親制度が社会の中でさらに理解が深まり一層発展することが期待されます。

(企画調整・情報提供担当)